当世名家評判記 前編 巻之下

特1
2925

国立国会図書館　タイトル『当世名家評判記 2巻』 請求記号 特1-2925

ガラス使用

特1
2925

国立国会図書館　タイトル『当世名家評判記 2巻』 請求記号 特1-2925

ガラス使用

当世名家評判記前編巻之下

江戸　悟免庵主人著
門人　出放大校

書家之部

大極上々吉

市河三亥　名亥　字孔陽
号小山林堂

序文

今世の筆法評判の書論は博覧の頗る近世の抜群大年源文義の及ぶ所に出るか

特1
2925

近来さかりまゝ行でも大家でござり外 図 狗中ふ
俗名ぶりゐゑどうもまゐ信名がけまゐねどうぞ
骨董の市へ体てくまてべいく絵りゑ金ゞ出来てゐる
ぶ名ゐ一先命へ今での常見まへ異くてまべよんふ
別紙絵ゐうへのも書画絵常へのも一ひゐりさべれてゆうど

喜上々吉　本多昌元　名 号香雪　字

[評] 書へ筆其間そのまゝでござりまん陵ゐゐる西人者人

まゐりませんが文人ゐへ雅も者ゐねのゐり書画も鑒
識も精密でござりまん [評] 先生へ真の書好名人
る者ゐゐでござりません

上々吉　小田切東次郎　名翼　号図南　字萬里

[評] さすが東江先生の高弟小楷が美ゐでござり外
書画のお精ゐへでござりまん陸ゐ見へ此人の人柄
出風でござりまゝ

上々吉　加須呂弘藏　名時鳴　字萬里　号盤桓

上々吉　杉浦市郎兵衛　名吉統　字總中　号西涯

評　四方人あづら舊き出でもどゝろ近寄難の門
迎ひ人いたき人へ一向よりもせん何まも名言でどゝろ

上々吉　八尾喜復　名惟德　字香馨　号克菴

評　おのゝよく出まゝ八雲立出まゝ放ありて
師匠の門よりまゝ高的日の出の勢ひで△り本

評判下二

評　ゑいはまでも惜いるゆ書綸へ一向よ志ゝ風流よ
今ゝ高く高雅がゝるよどゝろ弁　柳ゝ家奉ゝ
柳式中ゝ　評　柳ゝよく出来ゝ

上々吉　山内熊次郎　名晋　字希逸　号香雪

評　若麻ゝ一門人でどゝろ　柳ゝ盤桓ゝ乃
仕ゝ人ゝ学ゝ精ゝ今ゝ大家ゝ有ゝ　評　ゑ西ゝ
麻の前ゝ物ゝ　評　ゑく何ゝ有ゝ　評　ゑ西ゝ

上々吉　野呂省吾　名省　字省吾　号陶斎

近来大ぶん世名がうろうろ本 [四] 勝手向の係合は上を
あなどる自分のまいかんにて出来わるく [上キ] いろ
身の程わきまえの位大分弓矢同がちがものでござるそうさ

上上書　澤田文次郎　名哲　字文明　号東洋

上々書　秦源十郎　名　号星塢

上上書　中川文十郎　名　号憲斎

[四] 何ものも世名ものの位でござりまして今よりおのく立
物よりやりでござりまして東洋先生は弟子人が男ひまを

上上書　市川逐菴

上上書　関琴山

[四] 世の人とも世間の大ぶん物の世よりは人が高く
ゝ茶道茶陽よりは貴殿やうよりまさるとは

上々書　関根江山　名為室　字

[四] 近来一向に御利がござりませんが漢南傳家先
生の世位とも人位あるどのようくらいまさるとは
書が克菴よりは及びませんされども一名ものでござりました

[ワ]そもそも文人の細々ふるく高雅とゆふぶとれと人々

上々吉　神谷存左門　名績　字啓厚　号竜河

[ワ]こゝろの表功の先生でござりまして　[ワ]字いかくが見由

書海成をゝぬそうご

上々吉　松田正助　名正義　字直方　号董斎

[ワ]これハ董書の元生でござりまして　[ワ]くふハよんが

見由書法ハをゝぬ

上々吉　中西源吾　名寅　字子虎　号研斎

上々吉　澤村市之進　名徳基　字温卿　号墨葊

[ワ]ハ友人をゝぬ来屋元生の社中でござりまして

書をさすがをゝぬ門のよりかをゝぬ名をゝぬでござりまして

[ワ]ものの分のとをゝぬ仕也が遠のとゝぬ中之

あが進ゝ出まをまゝ之

上々吉　横井萬蔵　名篤　字子行　号天翁

[ワ]海名の人也墨ハ解で世をゝぬ者をまゝ之

韓篤でどざりまさとうまいよく廻りますいぶん書物
の出精をふどざりまた 上キ 今つよ江戸の大家よ家
とうせう内金でのよく流行しまさんかいく江戸
たやうまさせね

功上々吉

江倉助蔵門　名孝造　字子明　号龍澤

下ノ五

上ノ五 今までの大豆物一見をつて世の人ばかりのかたど
とうせずくく居まさと田へ文人の附人にもされませ
わが達者の弟でどざりまさと 口合 長ちもの弟八ちいぶ
文育とんへく勅撰の署〜やうも高くどう師匠
のもたけたくさのでやらう 上キ 二丁町の俗ろう 新場
山田通町まで店もでいたまで通りません
唐松といふものかきくくいふ人面へ年分のい筆の
先のく二百金ばかりません何とぞ使まさせう

大極上々吉

巻　右内　名大任　字致遠　号弘齋

[図] 上方へお登りの世間の評判ばかりとござりまして彩
[図] 第八 近世の稼ぎ名筆でござりまして江戸の書
[図] 法の新しいのでござりまして [図] のちの業耕出で板下
[図] だかり為て居さの人へものびのびそして今でも人
[図] と雪の成すうちうち雅号いやがるロイ [図] 貰うあく
[図] 第筆と互角でまるのいろいろのを [図] 近
[図] ざろいの下谷の組へまの門で連月の金銭拾めこ
[図] そうしが雅号の別ぬとさ

浮世名人

巻軸

大功吉吉

関忠 名克明 字子徳 号黄南 藏

[図] 東西くこ三代連綿と根源の出家あんとかか
[図] きござりまんまいが八幡人物のよう
[図] 長者でござりまん [図] そうざくく手跡でも二幷
[図] でも家保いの業うち近来まで有しが皆お殿様
[図] 御家の風圏の遺跡ばけで感心おくあんと書
[図] 家の巻物でいや物のいあるあ人

醫者之部

大極上々吉　多紀安叔　石町

[評] 当代名医の大家なり病治とゝひ実医者の大家物産の医者でもさんみくいくりきん [下キ] さうぐくどんな大病人でも逆くるいとゝいへどもどゝ[illegible]

大上々吉　宇田川玄榛　深川

[評] 医者逆も沢山ゐる者の初生ゑ[illegible]の薬で[illegible]ね人[illegible]ございます [図] あぜ藤治が出まゐぞ [下イキ] ゐまてさく此人は薬[illegible]の繕紙くく世間の医者の文盲紙も藤治ゐさいます

大上々吉　足立長雋　桶町

濃　長安　石町

[口合] ハゝんわくで押てゐるくの二本ゐのようさでおるこゝ郷でございます [評] 薬流で藤治は功者で

とぐろまきて ヒイキ あんでもいくらぶ此様よりちく
ろ 口合 彩色入の袋へいまてかくれ 焼のやうぶぜ
上々吉 シャウケン橋
口合 ぎの大家 傷寒論 草間宗仙
ちはよりぜ 旅籠も止まりて
上々吉 松嶋瑞碩 数玉が池
口合 ぎ子養子でどぐりまんが 浦のもの 流
紅いくまん 口合 一向よ ぎ向のきてが 笑へば
上々吉 馬場章瑞

評判下八

口合 大せいまりがあるうぐぶ みんる 夜食の
かくまりぐそうぐ 口合 年ぐんとらひ 流行いてーまん
上々吉 宇佐美朴仙 明神下
坂上元文 茂草
口合 ぢ あんとまよイヤ 山藤治 ぢどぐりまん
口合 書物へよめぬが 清さうるふ紙すぢぜのち
いく 叮嚀よすまべいく ヒイキ 仙八 東坡とらくぜ
上々吉 中村清菴 向両国

口合 業平紙すると人が相合で虎の法さまは
いのくさせのくさ佛のちりもよせいのふ図 イエヤ
出精で大流行なさまをうらやましく思ひ

上々吉　渡辺東榮　通一丁目
上々吉　伊東玄朴　下谷

陸奥 陸奥行科古文人ふんふ山流行でどざりまんれ
らんさ風も苦しる業史と繁昌とうる形毎ろう
とさりまると 口合 何とも虎の書物も出おまきあれば

上々吉　飯田玄眠　大信馬二丁目
谷大陵　同三丁目
出井林三　彩白狼丁

陸奥 表切とりひ情ふ山流行で一年まへ解れと
ふりまると 口合 三人とも居面の立のの〳〵

上々吉　山村隆仙　明神下

陸奥 〳〵ふりませんが立弁玄春の門人で雛経学
問風行のるる精ふりどざりまん作る集めるる文
るでどざりまん 口合 あんふ山流行なまと

上々吉　福井主水　下谷

評判　大言ばかりつくちけを物ものしてあるが流行らぬまゝ

口上　大師の書ぶりもしらぬ自分うぬぼれ自慢ばかりの人ばかりくらべたがらせぬふ

近年の面がらい人ばかりくらべたがらせぬふ

上々吉　山本玄端　池のもと

評判　年の若いが流行いとさまゝ神つけ新の

ちりかゝりませう

上々吉　二宮松亭　両国

評判　新の松でもどぶりませんが出精ちやさまとまゝ

上々吉　橋尚賢　浅河町

評判　口流行でどぶりまんが早ゝ同八出来ぬ図出来ぬ

あハよせびよりよりまり屋ゝる者の仏式すぐ

上々吉　岸内玄碩　石丁

評判　とゝゝの大丸の高名弟でもよくぶ者ゝ口流行で

どぶりまゝとヤ絵

上々吉　大槻玄沢　築地

上々吉　　杉内　吉伯　於山庵

[illegible]人とも久しの蘭学者でござりまする　[illegible]一向よ
ばかりの見よりえらくふきんくの人が出来まする

上々吉　　山田　展歴　深川
中井　隆益

[illegible]近頃[illegible]学者よりあらまし[illegible]たり[illegible]でござり
まする年かつてとやはり[illegible]早このいけめて[illegible]
[illegible]元が傷者ばかり[illegible]間いまするよりやはり乾[illegible]
かまびいのかきしよくはしたりとかしてすりとかしこの

上々吉　　三好春令　村松玄仲　村松丁

[illegible]三好が婦[illegible]さん材[illegible]の[illegible]態[illegible]いよくもひろめ
で一[illegible]よりまりませう

上々吉　　服田厚齋　[illegible]

[illegible]高[illegible]学者より書が妙でどざりませう　[illegible]連月令乃
[illegible]元生　[illegible]ちこれまするね

上々吉　　大嶋吉章　レイカシジマ

[illegible]とこれ今ろーの新よいこそうるめめざ

上々吉　　高井元春　ツキヂ

[illegible]只今でも新の通り業[illegible]の[illegible]同業和[illegible]て

流行いとさまをさを治療ものろひゆうでムりまんが
よくあるとうまん 口上 ちとうがめるまあ人ゆうなく〳〵

上々吉　林玄仲　小川町

口上 浮世のめふしをよくあらわしよく流行
でござりまん

上々吉　森田長安　天神下

口上 久しいものぐが流行せねあらし人今さらかるうしたり
まあ人 口上 あるあく名とかくあるあ功ゆ人治療人多
がうでござりまん

上々吉　清川元道　本郷

口上 治療よりも金ぬよりいるぬでござりま 口上 治
療ハちと新よりあるぞ

上々吉　谷川又齋　一ツメ

口上 長崎昌あの門人なら功ゆとうまん 口上 世ゆ人
あるぞびいどう人の金ぬとうとうけまりわるうい

上々吉　加藤善菴　両国

口上 世人も待人よいとうでござりまん

上々吉　長寿昌齋　金杉

ゆうでござる形毋あるさ人ふるうませうう

[評] 若衆一流かさの四郎作ハ芸ハ[口合]そう奇なる
御ものおけまど年来のうもく世ハ[illegible]ハ[illegible]
あんとちと四郎迯ても[illegible]せんう

功上々吉　　磯貝秀菴　下谷

[評] 貝[illegible]者ての世人でどざりませう何でも[illegible]
[illegible]ハ人[illegible]ありません[口合] 二階をあそこへ招はとれ
どざりますと[illegible]大きくしておぐーかけるのサ・かうもん

とうの提燈ときて居うぜ

大功上々吉　　池田瑞[redacted]　下谷

[評] 勇功とひの[illegible]人[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]迯の出板どどざります[口合] 色来
一向の[illegible]でのう[illegible]ばかりの[illegible]
ちと十[illegible]味うも[評] あんてもよく[口合] よく
あうぐ[illegible]十[illegible]ぜ[illegible]

此外種々物珍くござりまする事ど先年新家
限りあるべく今見とれぎりくく事外無
さくござる

本草家之部

大極上々吉　岩崎源藏　狼洋

[illegible]

でござりまし薬種も色くあり外に種類もいろ
また又近ごろ出まして珍種多くなりあ
産地の名のびで薬品の一人でござりまし
ぐく又いろいろ物ようく出まして本草園場に
たくく多く拾くござりまし
世法でくりまし種物の業物の秘伝今日弁

大上々吉　曾昌美　山本出四

陸奥　仙台の藩士でございます。もとは勿論のこと
蘭学者ゴッテ。すきで療治をいたさるゝ。成形図説の
訳述おゝいとけで遊く出板いたされます。□□兼編よ
ばらくぬゆうよすれば。いくが品物。ぶちらす筆の先
のきうと。妙義ゝゝとゝ。ゝ来ます。

大上々吉　宇多川榕菴　の門

陸奥　蘭学流の本草は此人でございます。獲澤の
業。迷の流の。多り。植物の語源。彩色図説

ぬでございます。蘭学のすきゝゝが。ゝゝくでございます。□□ゝゝ。岡のゝまん。あゝゝゝ。仙のでも見
い。英語遊。出て。人ゝ。ゝゝがゝゝゝ。

上々吉　松本順亭　下谷

陸奥　江戸表和の門人。吉風。お。出で。ゝゝ。出
ます。書物。蒙。すゝゝ。療治。出ます。なのも
ゝゝゝ。□□。ゝゝ。江戸。の。医師。ゝ。

いと佛殿の藏書の仲間なる人の社
るまに〳〵出もちゝ分ていとうれさる
みの集の注ものさうまゝ

上々吉　阿部友信　石丁

[評]えうこゞろまとが時の筆の筆ゞみ和草まへ
貴紙ゆりまんそして法ほも拾歴いて巴豆考を
書そうら世の人志まゝこを来へ癒治も出れ
いこまん [同]紙拾名物考跡なぜ出来ぬゞ [ヒイキ]

曾右衛門　岩藤　灌園　人の仕ものを草まへよく
笑えてとりまもと英遊ずきそ〳〵年　牧歌　春要八米の
高ひよ作てまゝ　れこうね

上々吉　吉田九一

[評]とまゝ筆ゞでこゞろまゝ筆　刻苦されまゝ
[同]ドゝ子ウス」の藩　澤もちと　緑塵が　たゝえまゝ　洗
澤紙志ゝとすか志ゝん

上々吉　坂本浩然　青山

[評判] 石まちの門人画ハ雪舟の極の印位又ハ其の
[ヒイキ] ゆるさぬめでたさ今様列の物ハ紀ゴ
ざりまを [口上] あぜ物の茶道が出来ぬ [ヒイキ] 草
稽古多くござりまたがいまだ上手ハいたされません
数寄屋流儀ハ世の人の貴形でとさうます

上々吉　井岡道貞

[評判] 蘭山門人で序文あどの名ハ久しく世人まこと
[口上] 考へてまつ等宋いちばんの水墨業勝

[評判] 下十七

[ヒイキ] 豊岡でいろね人 [ヒイキ] コラク此人の書物が濃まして
評判ものもいまつれます

上々高　大坂屋四郎兵衛

[評判] 蘭山の門人で手板啓蒙と中横本の一冊上本絞
[ヒイキ] ーしまつた [ヒイキ] 市医様よ出位本草をさせたら

上々吉　岡村尚謙

[評判] 岩崎の門人皇朝 仲澤ハ市骨打 橋澤まで
全備絞ーしまつ [口上] 篆書の本経ハやのよーなのせい

極上々吉　佐藤平三郎　花山

[陸奥] 老年でござりまして後世経歴いろいろ知るもの
多代物ありまして精々くらべんざいでござ
りまして沢山いろいろ英雄の勢程こざ
りました [江戸] 塚球で吾縄為多きあどちと
ぢん
牡選がござりました

當世名家評判記巻之下

評判下之十八

陸奥

相撲好の半所にて肘を張も
こゝろのどくの給金は高下を
見てゝ有らそ英雄よ
ゝしのそなくおそで見屋
ハのけくおさ人を
こゝろとおりこゝろ
ナ猪の沖じさたゝ江戸の

建ぶしめぐの世界の男はた
善西ア邪正ア評判記
傳者でも西者でも者は
男ハおかず通用とのもハ
いらしめとも不ル
爲二合まぜ
屑あるだ砂おもしいた
ぶどとよ
なるちまと

ちょうりと呼
嘘あるはてこ称ぎまま
形と町鉄炮
浮の新船で行
きてつまぽんとも形ぎと
しつと

アホ五甲生頁

国立国会図書館　タイトル『当世名家評判記 2巻』　請求記号 特1-2925

ガラス使用

特1
2925

国立国会図書館　タイトル『当世名家評判記 2巻』 請求記号 特1-2925

ガラス使用

特1
2925

国立国会図書館　タイトル『当世名家評判記 2巻』 請求記号 特1-2925

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『当世名家評判記 2巻』 請求記号 特1-2925

ガラス使用